



283

若竹だより



運営基本理念

報四恩

父母の恩・社会の恩

郷土の恩・大自然の恩

- 【私たちの願い】 ①よろこんで与える人間となろう ②いのちを大切にする人間となろう
 ③こころ静かに考える人間となろう ④使命に生きる人間となろう ⑤規律ある幸せ喜ぶ人間となろう

- 法人の社会貢献事業 ①四国八十八ヵ所巡礼者無料宿泊&お接待 ②講演会・シンポジウム等

【巻頭言】

ノーマライゼーション

—新しい社会的養育ビジョン—

園長 野田大燈

残暑お見舞い申し上げます。

今、児童福祉の世界が大きく変わろうとしています。

約 30 年程前に児童福祉分野で「ノーマライゼーション」と言う言葉が席捲したことがあります。

当時私は香川県の里親会会長として里親さんの開拓や推進に関わったことがあります。

現在、全国に児童養護施設が約 600 カ所ありますが、その設置の大きな発端は第二次世界大戦で日本の都市や街が焦土化して多くの戦災孤児が行き場を失いました。

その孤児たちに衣食住を与える慈善の方々が私財を擲って収容施設を開設したのが始まりです。

特に東京や大都市には多くの孤児がいたために、一施設に 300~400 人と言う収容人数の施設も多くありました。

国民の努力で国力も回復して来ることにより、国も「児童福祉」の観点から施設に補助金を交付することによって入所児童の生活は安定してきました。

しかし施設内の生活は多くの仲間たちとの共同生活生活の為に多くの規制と制約の中で暮らして

いました。

施設の子ども達に【普通の生活を】とのスローガンから、国は養護施設での生活を小規模化して、より家庭的な中で養育する道筋をつけました。

そして国は究極の「ノーマライゼーション」(脱施設)の一環として乳児院や児童養護施設等に入所している未就学児童(5才前後)を里親委託とし、将来的には施設入所中の全児童生徒を里親委託に移行しようと考えています。

急激に変化して行く児童福祉の流れの中で我が児童心理治療施設「若竹学園」の担わなければならない責務を考えています。

ご承知のとおり、家庭や学校教育の現場も含めて苦慮していますが、発達障害や精神障害を抱えた子ども達です。

里親さんは関係機関から里親としての知識や訓練を十分に受けておられますが、対応に苦しむケースもあると思います。

「児童心理治療施設」はその名称の通り、児童精神科医・小児科医・看護師・臨床心理士・保育士・生活指導員に加えて指導員の中に鍼灸師も在職して治療に取り組んでいます。

五色台の自然の中で、アロマセラピーやヤギの飼育によるアニマルセラピー等も治療の一助としてサポートしています。 —一—

若竹学園夏祭り



7 月 29 日土曜日に若竹学園夏祭りを行いました。今年 は学園の増改築工事の関係で園内だけでの夏祭りとなりました。子ども達は少し残念そうな表情を浮かべていました。いざ準備期間に入るとそれぞれの出店で必要な看板やチケットを班の中で話をしどれから作るのか、誰が作るのかを決めていました。分担しながら作業を進め、早い班は 5 日間で完成させていました。



壁飾りを作ったり、当日にどのようなことをしなければならぬか等のシミュレーションをしたりと本番まで確認をしていました。

本番当日は朝からの準備となり子ども達も道具を運んだり、テントを建てたり手伝いをしていました。

夏祭り開始時間になりそれぞれの持ち場に行きエプロンやバンダナを付けおもてなしをしていました。



学校の先生が来園して下さり子ども達も楽しそうに食事をしたり、遊んだりしていました。子

も達だけでの夏祭りでしたが先生と出店を回ったり会話をしたりして楽しめていました。

食育 ～クッキー作り～

8 月 1 日火曜日に、どうぶつクッキー作りをしました。子ども達はそれぞれ工夫してネコやカメ、クマなどを作っていました。出来上がるとお互いに自信作を見せ合いながら楽しく食べていました。



高松祭り花火見物

8 月 13 日は高松祭りの花火がありました。花火を見に行くと伝えると、「行く！！」と嬉しそうにしている子どもが多くいました。多くの花火が打ち上げられている様子を見て「おおー。」と声が出てしまうほど見入ってしまう子どももいました。

キャンプ

8 月 21・22 日の 2 日間でキャンプを行いました。子ども達も楽しみにしていたようで、前日の 20 日には職員と一緒に準備をする姿も見られました。

1 日目の最初のイベントは「うどん作り」です。初めて子ども達自身で作るうどんに悪戦苦闘しながらも一生懸命に作っていました。うどん作りの後には、自分達で打った麺を食べて、「こんなおいしい物は食べたことが無い」と喜んでいました。



「うどん作り」の後は、「サーカス」を見に行きました。大きなテントの中にステージがあり、ここでは火を吹いたり、空中ブランコや網目状の鉄の中でバイクが縦横無尽に駆け回るショーを観ました。

テントの中は気温が高く待ちきれなくなる子どももいましたが、ショーが始まると子ども達は目をキラキラと輝かせて見入っていました。



夕食は、BBQ と班ごとに食材を購入し、子どもたちと園生が協力して料理をしました。

各班が試行錯誤して作ったメニューはどれも美味しそうです。焼きそばや卵を使った料理や、洋風のメニューを作っている班もありました。朝食は夕食で食べきれなかった分と購入した食材を調理していました。



夕食の後は、キャンプファイヤーをしました。子どもたちは火の回りに集まり、レクリエーションをしました。少し体を使った遊びをした事で参加した子ども達は笑顔で楽しむことが出来ました。

続いて、2 日目に行った最初のイベントは「ウォータサバイバル」です。朝食を終えた子ども達が職員と一緒に準備をしてくれました。

各班に分かれて、相手の的を水鉄砲で狙います。各班とも全力で相手の的を狙い、走り回っていました。どの子ども、ずぶ濡れになりましたが楽しいと言う子が多かったです。その後に、キャンプ場の近くに沢があった為、職員と一緒に川で遊びました。飛びこめる場所もあり、子ども達は最初は怖がっていましたが 1 度飛ぶと何度もチャレンジしていました。



キャンプの最後の日程は、「プール」です。今回はトRESTA 白山の屋外プールです。流れるプールや高さ 5 メートル以上のウォータスライダーがありました。プールが始まるとすぐにウォータスライダーや流れるプールにそれぞれ向かって行きました。浮き輪を持って浮かんでいたり、たくさんの人を間を縫ってスイスイと泳いで行く手練れな子どももいました。

うどん体験でうどんをこねたり、打ったりするのが簡単と思っていたけど難しかった。
中学 3 年生男子

峰山公園

8 月 13 日は峰山公園に行きました。バスで向かい、たくさんの遊具やアスレチックロードに散歩道など子どもたちにとっての豊富な種類の遊び場がありました。暑い日差しの中でも、思いっきり体を動かしていました。それぞれが持ってきた道具を使って遊びました。

アスレチックロードでは、大人でも難しい障害物が何個も続いており、小学生や中学生はお互いに励まし合いながら挑戦していました。距離が長く、気温も高いので少し諦めかけた子どももいましたが、持ち前の根性を振り絞って最後まで行くことができていました。



プール

夏休みに子ども達が楽しみにしていた事はプールです。プールに着くと、鬼ごっこや距離を伸ばすために一生懸命 25 メートルを何度も泳いで練習している子もいました。ビーチボールを持って皆で投げ合ったり、疲れたのか日差しの中で休憩する子や、ぷかぷかと浮いて気持ちよさそうにしている子もいました。みんなプールを満喫できたようです。



8月の行事



6日 図書館学習

19日 図書館学習

21~22日 キャンプ



在籍人数 平成 29 年 8 月 25 日日現在

区分		県内 (人)	県外 (人)	合計 (人)
男子	小学生	4	1	5
	中学生	5	4	9
	その他	1	0	1
	計	10	5	15
女子	小学生	0	0	0
	中学生	4	1	5
	その他	0	0	0
	計	4	1	5
合計		14	6	20

編集後記

夏休みが終わり、新学期が始まりました。まだまだ続く暑さに子どもたちが負けないように援助していきたいです。

児童指導員 酒井 芳武

第 283 発行

〒761-8004 香川県高松市中山町 1501-192

TEL 087-882-1000 FAX 087-882-1160

ホームページ <http://4on.or.jp/>

Eメール wakatake@4on.or.jp

編集兼発行者 若竹学園 編集委員

発行責任者 野田 大燈